

<総括>

試験時間	90 分	総解答字数	940 字
------	------	-------	-------

前田健太郎『女性のいない民主主義』(岩波新書、2019年)を用い、国会議員選挙における候補者の半数を女性とすることを義務付けることについての是非を「民主主義」や「代表」という観点から考えさせる出題である。クォータ制やアファーマティブアクションといった社会において意見の分かれる問題について文中に示された視点から考察することを求めるという、名古屋大学法学部によくみられる出題となっている。今回の出題は問題文が前年の10ページから12ページへと増加した一方で、解答字数は200字減少している。また、論述の根拠について課題文中に示された概念と結びつけることを求めるなど、課題文を深く読み込む必要性は変わっていないことから、全体の難易度は前年度と大きく変わっていないといえる。

<課題文の分析>

大問番号	
内容 (主題)	国会議員選挙におけるクォータ制の是非
出典 (作者)	前田健太郎『女性のいない民主主義』(岩波新書、2019年)
長短・難易等 前年比較	長短 (短い・やや短い・変化なし・ やや長い ・長い) 難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
	課題文型	学部系統的	問1	説明	200字	下線部「普通選挙が民主主義の構成要素となっている」に関連して、シュンペーターの民主主義の定義とダールのポリアーキーという考え方では、普通選挙の位置付けがどのように異なるのかを説明する。それぞれについて普通選挙が民主主義の要素となっているかどうかを押さえておく必要がある。
			問2	説明	140字	下線部「政治家が、自分の支持者を代表している」と言うとき、この代表を課題文の筆者の言う実質的代表と考える場合と描写的代表と考える場合で、どのような意味の違いが生じるかを説明することが求められている。有権者と議員の間の意見の分布の重なりや社会の人口構成に注目して説明を組み立てる必要がある。

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
	課題文型	学部系統的	問3	論述	500～600字	「各政党は国会議員の選挙において候補者の半数を女性とすることを義務付ける」という考え方について、賛成か反対かを、課題文で示された「民主主義」や「代表」についての考え方と関連付けながら、理由を挙げて論評することが求められている。賛成の立場で論じる場合には、課題文中で取り上げられている概念に丁寧に寄り添いながら論述を展開することが必要である。一方、反対の立場で論じる際には、社会の人口構成要素の多様性や連続性に着目するなど、ジェンダーの視点を相対化して論考を深めることがポイントとなるだろう。

<答案作成上のポイント・学習対策等>

名古屋大学法学部の小論文は、民主主義や個人の自由や権利、格差をめぐる議論など、社会のあり方そのものをめぐる議論を取り上げ、現代社会や政治経済といった公民分野の教科書に取り上げられている項目と、実際の政治や経済における出来事とがどのように結びついているのかを考えさせる出題が続いている。そのため、日ごろから新聞やニュース解説などをチェックして、自らの社会問題に対する感覚を養っておく必要がある。

また、名古屋大学法学部の課題文は今回のような法律や政治といった領域にとどまらず、社会・経済的な内容を取り上げる場合もある。そのため学習対策としては、他の国公立大学の法政治系の過去問とともに社会学や経済学系統の過去の出題例にも目を向けることが必要であろう。

※出題形式は「テーマ・課題文 (英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」